



令和2年3月23日発行 中等新報第44号
新潟県立村上中等教育学校長 吉井 裕也

卒業証書授与式 ～ 13期生の前途に祝福あれ！～

3月17日（火）、第13回卒業証書授与式を挙りました。コロナウイルス感染拡大防止のため配慮した事項は、① 席の間隔を十分に空ける、② 来賓、在校生の列席は見合わせる、③ 卒業証書の授与は代表生徒のみに行う、④ 式後のHRは大体育館で行う等です。74名の卒業生の表情に目をやると、一人一人がとても大人びた感じになっているのに驚きました。きびしい大学受験を経験したせいでしょうか。この一年間の彼らの成長には、目を見張るものがありました。

校長式辞(抜粋)

新しい生活に踏み出す皆さんに、励ましの気持ちを込めて伝えたいことがあります。それは、自分を客観的に見る目を、意識して養ってほしいということです。もう一人の自分を心のうちに持ち、距離をおいて、生活者としての自分を見つめる。いわゆるメタ認知の力を身に付けてほしいのです。自分の思考の癖や情動のプロセスに自覚的になることによって、状況にそぐわない自身の言動を制御できるようになります。社会で求められる資質・能力は、主体性とコミュニケーション能力だとよく言われますが、いずれもメタ認知によって適切にコントロールされていることが前提となっていることに注意を向けなければなりません。

メタ認知能力を養い、伸ばすには、まずはすぐれた友人との会話を大切にすることです。皆さんが次に立つステージには、鋭い感性や洞察力に恵まれた敬愛に値する人物との出会いが待っているはずです。実は、そのような人々との出会いが進路実現の大きな目的の一つだったのです。彼らと本質的な議論を重ねていく中で、自らの思考の癖や激しい感情の動きを実感することができます。自分の言葉が他者にどう受け止められ、どのような形で投げ返されたのか、そのプロセスにおいて自分の思考と感情はどのように動いたのか、しっかりと記憶にとどめておく。次に、このような経験を基に、自分自身と対話する。あのとき、自分はどう応えるべきだったのか、自分は彼の言葉を本当に理解していたのか、あれこれと自分に問いかけながら、その過程を文章にして記録していく。文章にする過程で、自ずと自分自身が対象化されていきます。この作業の繰り返しが自己の客観視を促し、より深い自己理解へと導いてくれるのです。

物事が思いどおりに進まないとき、困難に遭遇したときには、人は内向きになりがちです。無意識のうちに自分を正当化し、自己中心的な考えに逃げ込んでしまうこともあるかもしれません。気持ちに余裕のないとき、人を責めたり、判断に狂いが生じがちなのも、自分を守ろうとする意識が強くなり過ぎてしまうためなのでしょう。そんなときには、マイナスの心情に振り回されず、まずは立ち止まって、冷静に自分自身のありようと問題の所在について考えを巡らしてみよう。思考を深めるに当たっては、心を許せる他者の力を借りること。他者の意見や助言を参考にしながら、不安や不満の元となっている漠然とした問題を、解決すべき具体的な課題に置き換えていく。課題に向き合っている中で、「分からないこと」や「できないこと」が次第に現れてきますが、決して焦ってはいけません。そのことが明確になった分だけ前進したのだと考えた方がよい。分からない部分はひとまず保留にして、すぐに取り組むことのできることにエネルギーを傾注すればいいのです。

長い人生、伸び伸びと生きていくには、自分の弱さや悩みについて開示できる、他者の助けを素直に受け取ることができる、そんなしなやかさが大切だということ、このことは覚えておいてください。

保護者と一緒に記念撮影



新潟県立村上中等教育学校

〒958-0031 村上市学校町6番8号 TEL.0254-52-5101 FAX.0254-53-6773
HPアドレス <http://www.murakami-ss.nein.ed.jp>